

2017年（平成29年） 2月24日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)  
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階  
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

## ■ 概況

2/9～2/15のNYMEX・WTIは、引き続き、OPEC・非OPECの協調減産実施と米国の供給増加見通しを材料に、52.93～53.86ドルの狭い範囲の中で推移した。

2月16日は、対ユーロでのドル高進行による原油先物の割安感、協調減産への好感等により、反発した。ただ、記録のある1982年以降最高の数字を示した前日の米国在庫報告が上昇の重しとなった。3月限の終値は前日比0.25ドル高の53.36ドルだった。

週末17日は、目新しい材料のない中、小幅続伸した。午後のペーカークヒューズ社の米国内石油掘削リグ稼働数598基（前週比7基増加、2015年10月以来の高水準）の報告もあまり影響はなかった。3月限の終値は前日比0.04ドル高の53.40ドルだった。

連休明け21日は、石油輸出国機構(OPEC)パーキント事務局長の加盟国は強い政治的意思を持って減産に取り組んでいるとの発言が報じられるなど、OPEC生産調整の進展が強く意識され、3営業日続伸し、期近物として1月6日以来の高値を付けた。3月限の終値は前日比0.66ドル高の54.06ドルだった。

22日は、同日夕刻と翌日の米国官民の国内在庫発表で、原油在庫の積み増しが予想されるなど、需給緩和感の継続に加え、同日の米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録公表による早期利上げ観測、さらに、前日の高値による利食い売りなどから、4営業日振りに反落した。この日から期近物となった4月限の終値は前日比0.74ドル安の53.59ドルだった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(4月渡し)は、前週53.80～54.80ドルと、引き続き狭い範囲で堅

調に推移した。16日は54.00ドル、17日は54.00ドル、20日は54.30ドル、21日は54.50ドル、22日は55.00ドルで推移した。

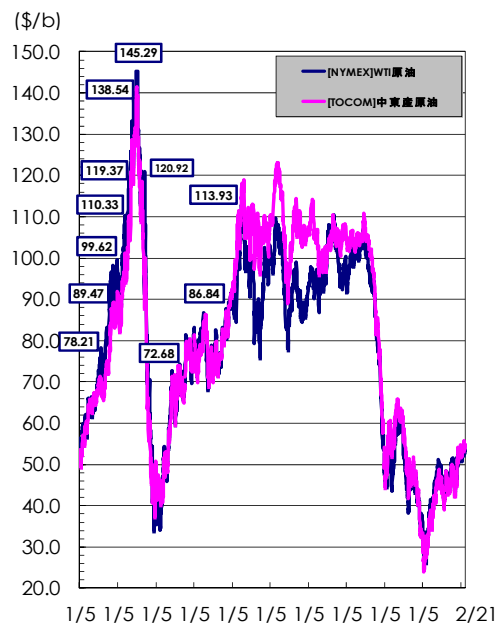
為替は、前週112.06～114.50円で推移した。16日は114.11円、17日は113.47円、20日は112.88円、21日は113.43円、22日は113.66円で推移した。

財務省が20日発表した貿易統計速報(旬間ベース)によると、1月下旬の原油輸入平均CIF価格は、前旬比565円上げの39,778円/kl。ドル建てでは54.87ドルで前旬比1.54ドル高。為替レートは1ドル/115.26円。また、同日の貿易統計速報(月間ベース)によると、1月の原油輸入平均CIF価格は、前月比5,837円上げの39,021円/kl。ドル建てでは53.27ドルで前月比6.60ドル高。為替レートは1ドル/116.45円。

主要元売会社の2月第4週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、1.0円の値下げから2.0円の値上げに分かれた。原油価格は横ばい、為替レートは小幅に円安で、原油調達コストはやや値上がりした。

そのような中で、2月20日時点の小売価格は、ガソリンが0.2円値下がりの130.6円、軽油が0.1円値下がりの110.1円、灯油も0.1円値下がりの78.0円だった。ガソリンは4週連続の値下がり、軽油も4週連続の値下がり、灯油は4カ月(19週)振りの値下がりだった。この週(2月第3週)の原油コストはわずかに値下がりし、元売の卸価格は据え置きから2.0円の値下げだった。

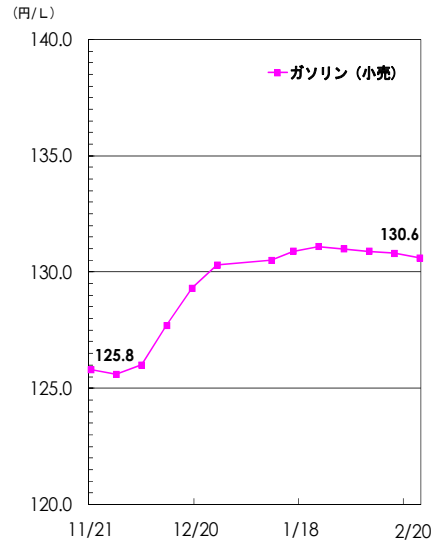
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	2/12 ~ 2/18	3,960 ▼ -99	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	93.9 ▼ -2.3	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	2/18	12,296 ▼ -943	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	2/20	54.68 ▼ -0.16	▲ 24.5
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	2/21	54.06 ▲ 1.13	▲ 22.6
	原油CIF単価 (\$/bbl)	1月下旬	54.87 ▲ 1.54	▲ 17.94
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	39,778 ▲ 565	▲ 11,999
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	115.26 ▲ 1.63	▲ 4.33
	外国為替TTSレート (¥/\$)	2/20	113.88 ▲ 1.08	▼ -0.03



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	2/12 ~ 2/18	1,076 ▼ -1	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	824 ▼ -119	▼ -	
	輸出	"	133 ▲ 79	▲ -	
	在庫	2/18	1,864 ▲ 119	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	2/14 ~ 2/20	47.9 ▲ 0.2	▲ 17.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	2/14 ~ 2/20	50.5 ▲ 1.0	▲ 18.0
		(TOCOM/中部)	2/20	50.5 ▲ 0.6	▲ 17.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	2/20	130.6 ▼ -0.2	▲ 17.6	

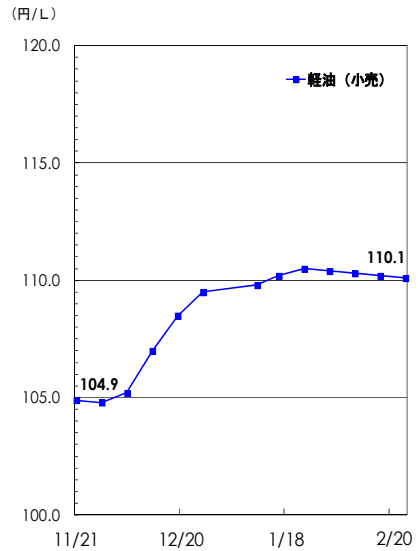
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

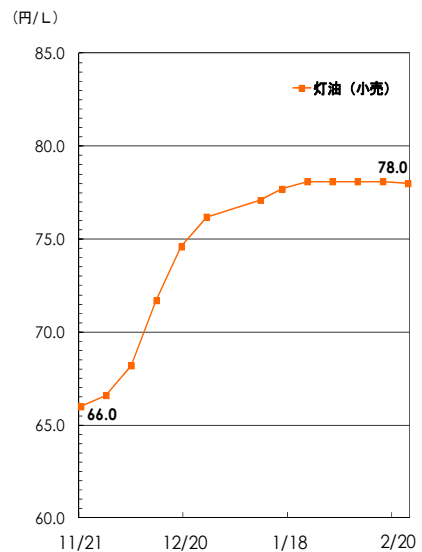
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	2/12 ~ 2/18	881 ▲ 22	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	614 ▲ 5	▼ -	
	輸出	"	206 ▲ 67	▲ -	
	在庫	2/18	1,664 ▲ 61	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	2/14 ~ 2/20	48.0 ▼ -0.3	▲ 15.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	2/14 ~ 2/20	46.0 → 0.0	▲ 8.6
		(TOCOM/中部)	2/20	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	2/20	110.1 ▼ -0.1	▲ 11.9	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	2/12 ~ 2/18	486 ▼ -9	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	557 ▼ -44	▼ -	
	輸出	"	0 → 0	→ -	
	在庫	2/18	1,456 ▼ -71	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	2/14 ~ 2/20	50.1 ▼ -0.3	▲ 15.2	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	2/14 ~ 2/20	50.2 ▲ 1.4	▲ 17.9
		(TOCOM/中部)	2/20	50.3 ▲ 0.8	▲ 16.9
	小売 [週動向] (資工庁公表)	2/20	78.0 ▼ -0.1	▲ 16.6	



■ 関連情報

1 海外/原油

2月22日のNYMEX市場WTI原油は、同日夕刻の米国石油協会(API)と翌日の米国エネルギー情報局(EIA)の国内在庫週報で、原油在庫が前週比350万バレル増と7週連続の積み増しとが予想されるなど、米国需給の緩和の継続に加え、同日の米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録公表による早期の利上げ観測への警戒感、さらに、前日の高値による利益確定売りなどから、4営業日振りに反落した。この日から期近物となった4月限の終値は前日比0.74ドル安の53.59ドル、5月限の終値は前日比0.68ドル安の53.93ドルだった。

EIAによると、2月20日時点のガソリンの小売価格は前週比0.5セント値下がりの1ガロン2.302ドル(69.2円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比0.7セント値上がりの2.572ドル(77.3円/ℓ)。ガソリンは2週振りの値下がり、ディーゼルは2週連続の値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2月12日～18日に休止したトッパー能力は前週に続きゼロであった。(全処理能力は379.0万バレル/日)。

原油処理量は396.0万klと、前週に比べ9.9万kl減少。前年に対しては6.8万klの増加。トッパー稼働率は93.9%と前週に対して2.3ポイントの減少、前年に対しては4.6ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリン、灯油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/0.1%減、ジェット/6.0%増、灯油/1.8%減、軽油/2.6%増、A重油/4.9%増、C重油/1.0%増。今週のC重油の輸入は9.2万kl(前週比3.4万kl増)。軽油の輸出は20.6万kl(前週比6.7万kl増)。

出荷(販売量)は、前週比ではガソリン、ジェット、灯油が減少し、その他の油種で増加した。前年比ではA重油、C重油が増加し、その他の油種で減少した。原油価格は小幅で値下がりし、小売価格は4週連続で値下がりとなったが、ガソリンの出荷は82.4万kl(対前週12.6%減)と2週振りで前週比で減少、3週連続で前年比で減少となり、3週連続で100万klを下回った。

ジェット7.8万kl(対前週24.4%減)、灯油55.7万kl(対前週7.2%減)、軽油61.4万kl(対前週0.9%増)、A重油32.0万

kl(対前週6.7%増)、C重油36.0万kl(対前週28.6%増)。

(単位:千KL)

	今週 (2/12 ~ 2/18)	前週 (2/5 ~ 2/11)	前週比
ガソリン	824	943	▼ -119 (-13%)
ジェット燃料	78	103	▼ -25 (-24%)
灯油	557	601	▼ -44 (-7%)
軽油	614	609	▲ 5 (1%)
A重油	320	300	▲ 20 (7%)
C重油	360	280	▲ 80 (29%)
合計	2,753	2,836	▼ -83 (-3%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

2月18日時点の在庫は、ガソリン、ジェット、軽油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはガソリン、ジェット、A重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは186.4万kl、前週差11.9万kl増。前年に対しては9.5万kl多い。

灯油は145.6万kl、前週差7.1万kl減。前年に対しては5.3万kl少ない。

軽油は166.4万kl、前週差6.1万kl増。前年に対しては4.4万kl少ない。

A重油は74.7万kl、前週差0.3万kl減。前年に対しては0.6万kl多い。

C重油は190.7万kl、前週差4.8万kl減。前年に対しては13.8万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (2/18)	前週 (2/11)	前週比
ガソリン	1,864	1,745	▲ 119 (7%)
ジェット燃料	915	906	▲ 9 (1%)
灯油	1,456	1,527	▼ -71 (-5%)
軽油	1,664	1,603	▲ 61 (4%)
A重油	747	750	▼ -3 (-0%)
C重油	1,907	1,955	▼ -48 (-2%)
合計	8,553	8,486	▲ 67 (0.8%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

2月14日から2月20日までの原油コストは、原油価格は横ばい、為替レートは円安で、原油コストは小幅に値上がりが見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン100～103円台、軽油47～48円台、灯油49～50円台でやや値上がりした。海上スポット価格は、ガソリン102～107円台、軽油48～49円台、灯油50～51円台、先物価格はガソリン103～104円台、軽油46円台、灯油48～50円台で、こちらも横ばいから後半に来てやや値上がりである。元売の卸価格は1.0円の値下がりから2.0円の値上がりだった。

東燃ゼネラルは2月23日、25日以降の外販スポット価格を、ガソリンを3.0円、軽油を2.0円、灯油と重油を1.5円値上する旨、さらに3月1日からは、ガソリンと軽油をさらに1.0円値上げする旨通知した。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

原油コストは小幅に値上がりで、製品スポット市況も前週の卸価格値上りの影響もあり、やや堅調に推移した。週間のガソリン販売量は、3週続けて100万klを下まわった。

2月第4週(2月23日～3月1日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(2月14日～2月20日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.2円の値上がり、灯油は0.3円、灯油は0.3円の値下がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが2.9円、灯油は2.2円、軽油は0.6円の値上がりだった。先物価格は、ガソリンが1.0円、灯油が1.4円の値上がり、軽油が横ばいだった。原油価格は横ばい、為替は円安で、原油コストは値上がりとなった。

2月第4週の大手元売の卸価格は、1.0円の値下がりから2.0円の値上がりだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/ℓ)		
[陸上ローリー4地区平均]	今週 (2/14～2/20)	前週 (2/7～2/13)	前週比	
レギュラー	47.9	47.7	▲	0.2
灯油	50.1	50.4	▼	-0.3
軽油	48.0	48.3	▼	-0.3

(TOCOM)		(単位: 円/ℓ)		
[期近物/終値]	今週 (2/14～2/20)	前週 (2/7～2/13)	前週比	
[平均]				
レギュラー	50.5	49.5	▲	1.0
灯油	50.2	48.8	▲	1.4
軽油	46.0	46.0	▶	0.0

※上記価格は税抜き価格

参考値 (2/14～2/20実績値)		(単位: 円/ℓ)	
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.2	▲ 1.0	▲ 0.6
灯油	▼ -0.3	▲ 1.4	▲ 0.6
軽油	▼ -0.3	▶ 0.0	▼ -0.2
A重油	▲ 0.1		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

2月20日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.2円値下りの130.6円、軽油が前週比0.1円値下りの110.1円、灯油は前週比0.1円値下りの78.0円だった。ガソリンは4週連続の値下がり、軽油も4週連続の値下がり、灯油は4カ月(19週)振りの値下がりだった。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは8県、横ばいは6都府県、値下がり33道府県だった。都道府県別のガソリンの全国最安値は、埼玉県の125.7円(前週比0.1円高)、2番目が徳島県の126.1円(同0.1円安)だった。最高値は長崎県の139.2円(同0.5円高)だった。都道府県別で、最

も値上がりしたのは前週比0.9円高の奈良県(130.4円)、値下がり県は1.2円安の秋田県(131.6円)、横ばいが大分県・東京都・高知県・京都府・熊本県・広島県の6都府県だった。原油コストはやや値下がりし、4週連続でガソリン小売価格は値下がりした。今週の元売会社の卸価格は1.0円の値下げから2.0円の値上げに分かれた。原油価格は横ばいで、為替レートはやや円安、原油コストはやや値上がりするため、大半の元売りは卸値を引き上げることから、次週(2月27日)のガソリン・灯油の小売価格は小幅な値上がりが予想される。

(資工庁公表)		(単位: 円/ℓ)			
[週動向]	今週 (2/20)	前週 (2/13)	前週比	直近高値	
レギュラー	130.6	130.8	▼ -0.2	08/8/4	185.1
灯油	78.0	78.1	▼ -0.1	08/8/11	132.1
軽油	110.1	110.2	▼ -0.1	08/8/4	167.4

小売価格

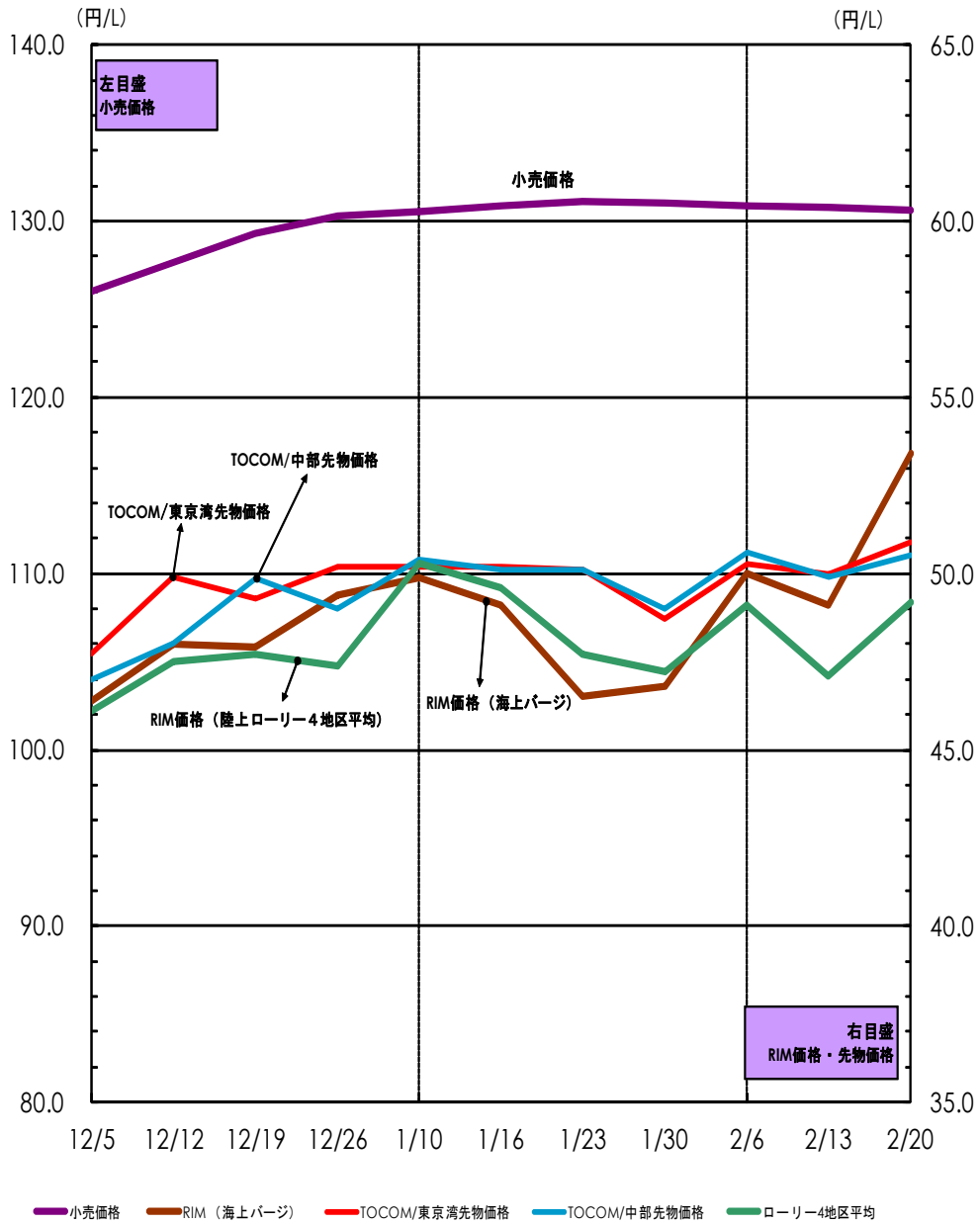
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2016/12/5 ~ 2017/2/20)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2016第46号)の公表は、3/3(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成28年9月末現在)は、12月21日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。  
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。  
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。  
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。  
「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。  
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」  
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。  
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。  
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。